

6. 仏教伝来と瓦

日本に仏教が伝えられたのは聖徳太子（しょうとくたいし）が活躍する少し前のことで、やがてお寺が建てられるようになりました。お寺には、それまでなかった高い建物の五重塔が建てられたり、建物の屋根に瓦が使われたりしたの。丸い瓦をよく見ると、蓮（はす）の花を真上からみた模様になっています。

飛鳥時代のお寺は、奈良県と大阪府にたくさん建てられました。その代表が今も大阪市にある四天王寺（してんのうじ）というお寺で、聖徳太子が建てたの。これよりあとの奈良時代になると、当時の首都だった平城京（へいじょうきょう）に、大仏で有名な東大寺（とうだいじ）などが建てられたのよ。

さあ、ここでクイズです。まるい瓦の模様は何をデザインしていたのかな？ 正解を聞きたい人は56番を押して下さい。

（56. クイズの正解）

まるい瓦の模様は、蓮の花をデザインしています。たくさんの瓦を展示していますが、上から下にいくにつれて時代が新しくなっています。この模様は、かんたんなデザインからだんだん複雑になっていくようすがわかります。